
悪役じゃない

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪役じゃない

【Nコード】

N2884S

【作者名】

坂田火魯志

【あらすじ】

あの伝説の悪役レスラーブッチャー。その彼が声援を受ける理由を知りたいと思った彼が試合で観たものとは。SmileJapan企画作品です。ブッチャーは本当にいい人だったとのこと。

第一章

悪役じゃない

アドタブラ「ブツチャー、誰もが言うそれこそ堂々たる悪役レスラーである。

スキンヘッドにでっぷりと太った巨体、それに先の尖った靴に様々な凶器を使った反則攻撃、理想的とさえ言える悪役レスラーだ。悪役レスラーといえばブツチャーだとだ。誰もが思うし言う程である。

その彼だがだ。プロレスファン達の間で悪名が高いかというところ決してそうではない。そのことにだ。

プロレスファンでない者が首を傾げさせた。何故あそこまで悪逆非道の限りを尽くしている人間の悪名が高くないかだ。それが不思議だった。

それでだ。彼はだ。プロレスファンにその理由を聞くのだった。

「何で皆ブツチャーを悪く言わないんだい？あんなに悪い奴なのに」

「それは試合を観ればわかるさ」

これがプロレスファンからの返答だった。

「試合を観ればね」

「そうなのかい？」

「まずは試合を観るんだ」

プロレスファンの言葉だ。まさにだ。

こうしてだ。彼はその誘いを受けてプロレスの試合を観ることにした。その試合はジャイアント馬場とブツチャーの試合だった。非常によく戦ってきた言うならば宿敵同士の対決とも言えるカードであった。

第二章

馬場といえはやは絶対のヒーローである。日本のプロレス界における英雄の一人だと言っても過言ではない。

それに対してブッチャーはまさに悪漢だ。そうとしか思えない。その二人の対決になると馬場には声援、そしてブッチャーにはブーイングだと思われた。しかしだ。

その対決がはじまるとだ。観客席のファン達はだ。

馬場だけでなくブッチャーに対しても暖かい声援を送る。そうしていたのだ。

彼はそのことに驚いた。それが信じられなかった。それでだ。誘ってくれたプロレスファンを見る。見れば彼の顔は。

優しい笑顔になっていた。そして温かい目をしている。そのうえで試合を観ているのだ。

他の観客達もだ。誰もがそうした笑顔、目になっている。そしてそれは。

ブッチャーもだった。馬場に対してとても温かい目になってだ。そのうえで彼と戦っていたのである。まさにその目はであった。

心ある優しい者だけができる目であった。彼はその目を見てだ。わかったのだ。

ブッチャーは本当は悪人ではないのだ。悪役レスラーというポジション、そしてそのファイトからそう言われるだけでだ。実は善人、非常に心優しい人だったのだ。彼はそのことを今わかった。

それがわかるとだ。彼はだ。

何故誰もブッチャーを悪く言わないのか、そして声援を送るのかわかった。彼のことを知っているからだ。

それから彼はブッチャーについていぶかしむことはなくなった。そして彼についてこう言うのだった。

「ブッチャーさんは素晴らしい人です」

これは多くのプロレスファンが言う言葉だ。悪役レスラーといっ
てもだ。その素顔は非常に心優しい人物だったのである。

悪役じゃない 完

2011・4・6

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2884s/>

悪役じゃない

2011年5月28日16時33分発行